

## 雇用の喪失ではなくて、人と機械の新たな結びつき



(7月のごあいさつ)

平成25年7月1日(月)

新しく移転した事務所は、壁全体に窓が広がり、久茂地交差点の景色が常時目に入ってきて、いい雰囲気の中で仕事が出来ています。

4月のごあいさつに紹介した「機械との競争」(2013年日経BP社発行 エリック・ブリニョルフソン及びアンドリュー・マカフィー著 村井章子訳)は、デジタルオートメーションによる雇用喪失について強調しすぎた感があったが、つい最近、これを読まれた経営者から、組織改革の観点から読後の印象記をいただいた。「組織改革と人的資本の強化」、すなわち人と機械の新たな結びつきと言った趣旨であった。

これを読ませていただいて、改めて、「人的資本への投資」のところを読み直した。そこで強調されているのは、人的資本の強化によるスキル開発の可能性である。アメリカの教育制度の生産性の低さは、教育には改善の余地がきわめて大きいということであり、観点を換えれば大きなチャンスがあるということになるとして、

旧態の教育—教育部門が情報技術の採用で後れをとっているのは、けっして偶然ではない。教室に並んで腰掛けた生徒を相手に先生が授業をするという基本的な指導法は、何世紀もほとんど変わっていないのである。昔からのジョークにもある通り、これでは教師の講義ノートから生徒のノートに情報を移すだけで、どちらの脳みそも通過しない。多くの教室では、主な指導技術と言え、文字通り石灰石を粉にしたものを黒い大きな石板になすりつけることに他ならない。

新しい教育—教育のデジタル化が進めば、教育者は従来とは違ったアプローチを実験し、追跡調査し、何がうまくいき何がうまくいかないかを見きわめ、新たな知見を共有することができるだろう。その結果、教育改革のペースは加速し、教育の生産性ははるかに高まるはずだ。ビジネスが原子(物質)ではなく、ビット(電子情報)に依存するようになると、新たに生み出される製品それぞれが、次の起業家が利用できるパーツとなる。物理的な世界の鉱物資源や農地は使えば枯渇するが、電子の世界のアイデアは使ってもすり減ることがない。新たなデジタルビジネスは、それまでのものをうまく組み合わせたり、混ぜ合わせたりしたものであってもイノベーションとなる。グーグル、フェイスブック、アップル、アマゾンといった企業は、まったく新しい製品カテゴリーや業界の収益構造を生み出し、新しい産業を創出している。それは、人間と機械とを思いがけない方法で結びつけて、数百万の新規雇用を創出するなどアメリカの雇用危機に光明をもたらしている。

「文明がこれまでに成し遂げた最も偉大な功績は、機械を人間の主人ではなく奴隷にしたことである。」というハブロック・エリス(1922年)のインパクトの強い言葉は、デジタル技術によるイノベーションと人と機械の新たな結びつきを期待させるものである。